

P1, L14

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-164528

(43) 公開日 平成10年(1998) 6月19日

(51) Int.Cl.⁸H04N 7/08
7/081

識別記号

FI

H04N 7/08

Z

審査請求 未請求 請求項の数13 FD (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願平8-334719

(22) 出願日 平成8年(1996)11月28日

(71) 出願人 000001889

三洋電機株式会社

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号

(72) 発明者 清水 敦志

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三

洋電機株式会社内

(74) 代理人 弁理士 長屋 文雄 (外1名)

(54) 【発明の名称】 テレビジョン放送方法及び好感度検出装置

(57) 【要約】

【課題】 視聴者の人物（出演者、監督等）の好みに応じて番組案内、選局、録画等を行なうことができるテレビジョン放送方法及びテレビ用装置を提供する。

【解決手段】 デジタルテレビのテレビジョン放送においては、独立データや番組の付加データ中に人物名データが格納されている。視聴者がテレビを視聴した場合には、この人物名データを取り込むとともに、視聴者のマニュアルの設定も考慮して視聴者の人物の好感度を検出する。そして、番組案内においては、好感度の高い出演者等の人物を各番組の案内の先頭に表示する等してその人物を優先して表示したり、好感度の高い人物が出演する番組を自動録画する。

32

| 番組案内 チャンネル88 | |
|-----------------|------------------------------------|
| 9:00 | 映画 |
| 10:00 | ・出演 中部太郎 ・監督 東北太郎 ・出演 関東太郎 |
| 11:00 | ニュース 東海太郎 |
| 12:00 | 映画 |
| 13:00 | ・出演 中部太郎 |
| 14:00 | ・監督 東西太郎 |
| 15:00 | ・出演 九州太郎、南北太郎、中国太郎 |
| | ドラマ |

Best Available Copy

【特許請求の範囲】

【請求項1】 デジタルテレビ放送の受信データに、人物名を示す人物名データを含めて放送を行なうことを特徴とするテレビジョン放送方法。

【請求項2】 人物名データが、受信データにおける独立データとしての案内データであって、所定の放送チャンネルにおける放送番組名を示した案内データに格納されていることを特徴とする請求項1に記載のテレビジョン放送方法。

【請求項3】 人物名データが、受信データにおける所定の番組データの付加データとして格納されていることを特徴とする請求項1又は請求項2に記載のテレビジョン放送方法。

【請求項4】 人物名データにおける人物名が、番組の出演者名、監督名、脚本家名の少なくともいずれかの名前であることを特徴とする請求項1から請求項3までのいずれかに記載のテレビジョン放送方法。

【請求項5】 テレビジョン放送の視聴に際しての視聴者の好感度を検出する好感度検出装置であって、少なくとも視聴者の視聴履歴に基づき、人物の好感度を検出することを特徴とする好感度検出装置。

【請求項6】 テレビジョン放送の視聴に際しての視聴者の好感度を検出する好感度検出装置であって、少なくとも視聴者の視聴履歴と視聴者の設定した内容とに基づき、人物の好感度を検出することを特徴とする好感度検出装置。

【請求項7】 テレビジョン放送の受信データにおける所定の番組データの付加データとして格納されている人物名データにより、視聴者の視聴履歴に基づく検出を行なうことを特徴とする請求項5又は請求項6に記載の好感度検出装置。

【請求項8】 好感度検出装置が、番組の出演者、監督、脚本家の少なくともいずれかについて好感度を検出することを特徴とする請求項5から請求項7までのいずれかに記載の好感度検出装置。

【請求項9】 好感度検出装置が、上記デジタルテレビ放送の受信データに格納された人物名データであるとともに、好感度が検出された人物の人物名データを検索する検索手段を有することを特徴とする請求項5から請求項8までのいずれかに記載の好感度検出装置。

【請求項10】 好感度検出装置が、さらに、上記検索手段により検索された人物名データに関する番組について、優先的に案内を行なう案内手段とを有することを特徴とする請求項9に記載の好感度検出装置。

【請求項11】 好感度検出装置が、さらに、上記検索手段により検索された人物名データに関する番組について、自動録画を行なう録画手段を有することを特徴とする請求項9又は請求項10に記載の好感度検出装置。

【請求項12】 好感度検出装置が、さらに、視聴者が

テレビジョン放送を視聴している場合で、その視聴している番組と上記検索手段により検索された人物名データに関する番組とが一致しない場合に、上記検索された人物名データに関する番組に切り換えて出力する切換え手段を有することを特徴とする請求項9から請求項11までのいずれかに記載の好感度検出装置。

【請求項13】 好感度検出装置が、さらに、上記検索手段により検索された人物名データに関する番組について、優先的に扱う優先処理手段を有することを特徴とする請求項9に記載の好感度検出装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、テレビジョン放送方法とテレビジョン受信装置に関するものであり、特に、CS放送等のデジタルテレビ放送方法とそのテレビジョン受信装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来より放送衛星を用いたBS放送や通信衛星を用いたCS放送等のテレビジョン放送が行なわれている。ここで、特に、上記CS放送等のデジタルテレビ放送のサービスが近時広がりつつある。また、特開平5-2794号公報及び特開平5-62283号公報には、視聴履歴データにより好みの番組を識別し、好みの番組の放送時にテレビを見ていない等の場合には該好みの番組の自動録画を行なう自動学習録画装置が開示されている。また、特開平6-133235号公報には、視聴履歴データの統計処理により使用頻度の高い番組の選局や録画を行なうことができる点が開示されている。また、特開平6-84231号公報には、放送番組のタイトル、放送年月日等のデータを電話回線を介して受信してテレビ画面に表示し、視聴者のキー操作により録画予約を行なうシステムが開示されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、上記従来の技術においては、視聴者の出演者等の人物の好みによる制御ができない。そこで、本発明は、視聴者の人物の好みに応じて番組案内、選局、録画等を行なうことができるテレビジョン放送方法及びテレビ用装置を提供することを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は上記問題点を解決するために創作されたものであって、第1には、テレビジョン放送方法であって、デジタルテレビ放送の受信データに、人物名を示す人物名データを含めて放送を行なうことを特徴とする。これにより、視聴者の視聴に際して人物名データを取り込む等により視聴者の人物についての好感度を得ることができ、また、この好感度と受信データの人物名とを比較することにより好感度に応じた処理を行なうことができる。

【0005】また、第2には、上記第1の構成におい

て、人物名データが、受信データにおける独立データとしての案内データであって、所定の放送チャンネルにおける放送番組名を示した案内データに格納されていることを特徴とする。この案内データに含まれた人物名データと好感度が検出された人物名データとを比較して、この好感度に応じた処理を行なうことができる。また、第3には、上記第1又は第2の構成において、人物名データが、受信データにおける所定の番組データの付加データとして格納されていることを特徴とする。よって、視聴者の視聴に際してこの付加データとしての人物名データを取り込んで、視聴者の人物についての好感度を得ることができる。また、第4には、上記第1から第3までのいずれかの構成において、人物名データにおける人物名が、番組の出演者名、監督名、脚本家名の少なくともいずれかの名前であることを特徴とする。よって、出演者等の好感度に基づく処理を行なうことができる。

【0006】また、第5には、テレビジョン放送の視聴に際しての視聴者の好感度を検出する好感度検出装置であって、少なくとも視聴者の視聴履歴に基づき、人物の好感度を検出することを特徴とする。よって、出演者等の好感度を得ることができ、この好感度によって好感度に応じた処理を行なうことができる。特に、視聴履歴により好感度を検出するので、視聴者自身の気付かない好みも検出することができる。

【0007】また、第6には、テレビジョン放送の視聴に際しての視聴者の好感度を検出する好感度検出装置であって、少なくとも視聴者の視聴履歴と視聴者の設定した内容とに基づき、人物の好感度を検出することを特徴とする。よって、出演者等の好感度を得ることができ、この好感度によって好感度に応じた処理を行なうことができる。特に、視聴履歴により好感度を検出するので、視聴者自身の気付かない好みも検出することができる。また、視聴者の設定した内容も考慮するので、視聴者の意思を尊重した好感度の検出を行なうことができる。

【0008】また、第7には、上記第5又は第6の構成において、テレビジョン放送の受信データにおける所定の番組データの付加データとして格納されている人物名データにより、視聴者の視聴履歴に基づく検出を行なうことを特徴とする。また、第8には、上記第5から第7までのいずれかの構成において、好感度検出装置が、番組の出演者、監督、脚本家の少なくともいずれかについて好感度を検出することを特徴とする。また、第9には、上記第5から第8までのいずれかの構成の好感度検出装置が、上記デジタルテレビ放送の受信データに格納された人物名データであるとともに、好感度が検出された人物の人物名データを検索する検索手段とを有することを特徴とする。この好感度検出装置においては、検索手段が、受信データにある人物名と好感度が検出された人物名とが一致することを検索するので、好感度の高い人物に関連する番組を検出することができる。

【0009】また、第10には、上記第9の構成において、好感度検出装置が、さらに、上記検索手段により検索された人物名データに関する番組について、優先的に案内を行なう案内手段とを有することを特徴とする。よって、好感度の高い人物が出演する等好感度の高い人物に関連した番組がどのチャンネルでいつ始まるかを知ることができる。また、第11には、上記第9又は第10の構成において、好感度検出装置が、さらに、上記検索手段により検索された人物名データに関する番組について、自動録画を行なう録画手段とを有することを特徴とする。よって、好感度の高い人物に関連した番組を自動的に録画することができるので、その番組を視聴し忘れても後で見ることができる。

【0010】また、第12には、上記第9から第11までのいずれかの構成において、好感度検出装置が、さらに、視聴者がテレビジョン放送を視聴している場合で、その視聴している番組と上記検索手段により検索された人物名データに関する番組とが一致しない場合に、上記検索された人物名データに関する番組に切り換えて出力する切換え手段とを有することを特徴とする。よって、テレビを視聴している者が好感度の高い人物に関連した番組が放送されているにも拘らず、それを見忘れることがない。また、第13には、上記第9の構成において、好感度検出装置が、さらに、上記検索手段により検索された人物名データに関する番組について、優先的に扱う優先処理手段とを有することを特徴とする。よって、該番組を優先的に扱うことにより、好感度の高い人物に関連した番組を見忘れる等の問題を解決することができる。

【0011】

【発明の実施の形態】本発明の実施の形態としての実施例を図面を利用して説明する。本発明に基づくテレビジョン受信装置Aは、図1に示されるように構成され、BS・UHF・VHF共用受信部10と、CS用チューナー12と、QPSK復調部14と、誤り訂正部16と、スクランブル解除部18と、データ分離・番組選択部20と、映像デコード22と、音声デコード24と、格納部26と、キャラクタジェネレータ28と、インタフェース30と、表示部32と、スピーカ34と、DVD-RAMドライブ36と、ホームオートメーション通信部40と、リモコン受光部42と、スロット44と、モデム46と、記憶部48と、インターネットソフトウェアモジュール（以下単に「モジュール」とする）50と、CPU52とを有している。このテレビジョン受信装置Aにおける所定の構成が好感度検出装置としても機能する。

【0012】ここで、上記BS・UHF・VHF共用受信部10は、接続部5を介してBSアンテナ60、UHFアンテナ62、VHFアンテナ64に接続され、これらの各アンテナを介してBS放送、UHF放送、VHF放送の各放送信号を受信するものであり、各放送信号の

ビデオ信号とオーディオ信号とをインタフェース30に出力する。

【0013】また、CS用チューナー12は、接続部7を介してCSアンテナ66に接続され、このCSアンテナ66を介してCS放送の放送信号を受信する際の受信チャンネルを選択するものである。また、QPSK復調部14は、QPSK変調されている放送信号の受信データを復調するものである。また、誤り訂正部16は、符号化された受信データの伝送路等において生じた誤りを正しいデータに復元するものである。また、スクランブル解除部18は、スクランブルを解除する機能を有し、カード70から読み込まれたスクランブル用のコードを使用してスクランブル解除が行なわれる。また、データ分離・番組選択部20は、受信データに含まれる独立データや付加データを分離するとともに、ある受信チャンネルにおける複数の放送チャンネル(番組)において、所定の放送チャンネルを選択するものである。

【0014】ここで、CS放送の受信データの構成について説明すると、図2、図3に示すように構成される。この図2、図3は、1つの受信チャンネルに4つの放送チャンネルと1つの独立データが含まれる場合を示すものであり、パケットごとに独立データや番組データが格納される。この場合は4つの放送チャンネルの場合であるので、4種類の番組データ「番組データ1」～「番組データ4」が格納されている。独立データには、番組案内データや新聞データ等が格納されている。また、各番組データには、映像データと音声データと付加データとが含まれる。この付加データは、映像データや音声データ以外のデータであり、出演者のデータ等が含まれる。なお、図3は、番組データ1の情報量が他の番組データよりも多い場合を示し、例えば、番組データ1が映画番組のデータであり、他の番組データが天気予報等のように静止画に近い画像のデータである場合等がこれに当たる。

【0015】また、映像デコーダ22は、選択された番組における映像データを復号し、音声デコーダ24は、選択された番組における音声データを復号する。また、格納部26は、上記独立データにおける番組案内データや新聞データ、上記付加データを格納する。また、キャラクタジェネレータ28は、文字データを表示部32に表示するために文字データを映像データに変換するものである。

【0016】また、上記インタフェース30は、該インタフェース30に接続された各機器間のインタフェースを司る。また、表示手段としての表示部32は、映像を表示するものであり、モニタにより構成される。スピーカ34は音声を出力する。また、DVD-RAMドライブ36は、視聴者の指示等に基づき受信データを記録するものである。このDVD-RAMドライブ36は録画手段として機能する。

【0017】また、上記ホームオートメーション通信部40は、各種のホームオートメーションシステムに接続され、該ホームオートメーションシステムとの通信を行なう。リモコン受光部42は、リモコン68からの出力データとしての赤外線を受光し、該出力データの内容をCPU52に出力する。スロット44は、カード70に記録されたデータを読み取り、その内容をCPU52に出力する。このカード70は例えばICカードであり、このカード70には、視聴者の視聴に応じて徴収料金データが蓄積される。また、モデム46は、公衆回線としての電話回線74に接続され、デジタルデータを電話線伝送に適した音声データに変換するとともに、その逆の処理を行なうものである。なお、電話回線74には、該モデム46を介して電話機72が接続されているものとする。また、記憶部48には各種情報が記憶され、例えば、後述するフローチャートに応じたプログラムやCPU52により得られたデータ等が記憶媒体としての記憶部48に記憶されている。この記憶部48はRAMにより構成される。

【0018】また、上記モジュール50は、上記モデム46に接続され、インターネットに接続するための各種機能を備えている。また、CPU52は、テレビジョン受信装置Aの各部の動作を制御するものであり、過去の視聴履歴やマニュアル設定により視聴者の好みの人物等の要素を検索し、この好みの要素に従った制御を行なう。つまり、番組案内モードにおいて、好みのジャンルの番組を優先して表示したり、視聴者の好みの人物が出演する番組等を優先して表示したりする。このCPU52は、上記検索手段、案内手段、録画手段、切換え手段、優先処理手段として機能する。

【0019】上記構成に基づくテレビジョン受信装置Aの動作について説明する。まず、CS放送の受信について説明する。通信衛星からのCS放送の放送信号はCSアンテナ66において受信されるが、CS用チューナー12は、受信する受信チャンネルを選択する。そして、QPSK復調部14は、QPSK変調されている放送信号の受信データを復調し、誤り訂正部16は、復調された受信データの誤り訂正を行なう。スクランブル解除部18は、スクランブル解除を行なう。つまり、CS放送でスクランブル放送番組を受信する際には、スロット44よりカード70のコードを読み込ませることが必要である。また、データ分離・番組選択部20は、スクランブル解除された受信データに含まれる独立データや付加データを分離するとともに、ある受信チャンネルにおける複数の放送チャンネルにおいて、所定の放送チャンネルを選択する。そして、選択された放送チャンネルの番組について、映像データが映像デコーダ22において復号され、音声データが音声デコーダ24において復号される。また、独立データや番組ごとの付加データが格納部26に格納される。そして、インタフェース30

を介して表示部32、スピーカ34に出力される。なお、独立データや付加データにおける文字データはキャラクタジェネレータ28により映像データに変換される。以上のようにして、CS放送の番組が出力される。

【0020】また、BS放送やUHF放送、VHF放送の受信について説明すると、放送信号はBSアンテナ60等を介してBS・UHF・VHF共用受信部10において受信され、ビデオ信号とオーディオ信号がインタフェース30に送られて、表示部32及びスピーカ34から出力される。

【0021】次に、視聴者の好みの要素に従う制御について説明する。本実施例のCS放送のテレビジョン放送方法においては、テレビ関係データが独立データに含まれた形で放送されている。このテレビ関係データには、番組案内データやテレビ案内データがある。このテレビ関係データは、上記案内データとして機能する。ここで、上記番組案内データは、放送チャンネルごとに放映時間と番組の内容（番組名データ、ジャンル名データ、人物名データ）の情報が格納されている。なお、この番組案内データには、複数のチャンネルのデータが格納されている。つまり、現在受信している受信チャンネル以外の受信チャンネルのデータも格納されている。ここで、ジャンル名データとは、その番組のジャンルが含まれ、例えば、映画、ドラマ、スポーツ、音楽等のように格納されている。上記人物名データには、出演者名、監督名、脚本家名等の番組関係者の情報が含まれる。また、上記テレビ案内データは新聞データに含まれるもので、データの内容としては上記番組案内データと略同一である。

【0022】また、各番組データ（図2、図3参照）には、その付加データの中にその番組の番組名データ、ジャンル名データ、人物名データ等が格納されている。この人物名データには、上記テレビ関係データの場合と同様に、出演者、監督、脚本家等の番組関係者の情報が含まれる。また、人物名データとしては、実在する人物である必要はなく、例えば、漫画等のキャラクタ名を人物名データとして扱ってもよい。

【0023】次に、好みの要素の検索について、図4、図5、図6を使用して説明する。まず、視聴履歴データの蓄積について説明する。視聴者がCS放送のテレビジョン番組を視聴するとする。すると、その視聴した番組の番組データには、付加データが格納されているので、この付加データがデータ分離・番組選択部20で分離され、格納部26に一時格納される（図4 S10）。また、同時に上記テレビ関係データにおける視聴した番組に対応するデータを分離し、該データを格納部26に格納する（図4 S11）。以上のようにして格納部26に格納された視聴者の視聴履歴データはCPU52を介して記憶部48に格納される。

【0024】また、視聴者のマニュアルによる好みの要

素の設定について説明する。視聴者はリモコン70等により好みの要素を設定することができる（図5 S20）。ここで、好みの要素とは、名称（例えば、番組名）、ジャンル、人物、放映時刻等がテレビ番組に関する各種要素が挙げられる。例えば、ある俳優が好みの場合には、その俳優の名前を入力する。この設定された好みの要素のデータはCPU52を介して記憶部48に記憶される。

【0025】上記のようにして、視聴履歴データが自動蓄積され、また、視聴者が好みの要素を設定すると、所定のタイミングで好みの要素を検索する。つまり、CPU52により、記憶部48に記憶された過去の視聴履歴データが検索され（図6 S30）、また、記憶部48に記憶された視聴者の好みの要素の設定内容が検索される（図6 S31）。そして、この該過去の視聴履歴データや設定内容に従い、好みの要素を検出する（図6 S32）。具体的には、各要素ごとに好感度を示す好感度数により順位を付けることにより好みの検出を行なう。つまり、視聴履歴データに存在する要素について所定の度数を付けてこれを加算していく。なお、上記視聴履歴データと視聴者の設定内容の間の重み付けは適当に行なう。

【0026】これにより、ジャンル、人物、放映時間等の好みを検出される。例えば、ジャンルにおいては、ニュース番組が一番の好みで、映画が二番目の好みであるとか、人物については、ある特定の俳優が好みである等が検出される。このように検出された結果は、図7に示すような好感度テーブルに格納される。この好感度テーブルは、記憶部48に設けられている。この図7の好感度テーブルは、ジャンルでは「ニュース」が最も好感度数が高く、人物では「中部太郎」が最も好感度数が高いことを示している。また、異なる要素間での優劣まで検索してもよい。つまり、例えば、ジャンルではニュースが好みで、人物ではある俳優が好みと検出された場合に、映画の好感度数と人物の好感度数とを比較して相互に優劣を判定する。このようにして異なる要素間で判定された結果は図7の好感度テーブルの総合の欄に示すように構成される。

【0027】なお、過去の視聴履歴データと視聴者の設定内容のどちらかにより好みの要素を検索するようにしてもよい。また、視聴者の設定以外に視聴履歴により好みの要素を検索するので、視聴者自身が気が付かない好みも検索することができる。以上のようにして、好みの要素の検索を行なう。

【0028】次に、番組案内モードにおける表示について説明する。番組案内モードにおいては、放送チャンネルごとに放映時間と番組の内容等が表示される。表示の一例を示すと図8に示すようになる。この図8に示す表示内容は、番組案内モードにおける通常の場合の表示内容である。

【0029】ここで、上記のように検索された好みに要素に従った番組案内モードの表示について説明する。つまり、番組案内モードにおいて、好みの要素による表示を選択する場合について説明する。まず、独立データ中のテレビ関係データを取り込む(図9 S40)。取り込んだテレビ関係データにおけるある放送チャンネルの内容は例えば図8に示すようになる。そして、視聴者の好みの要素と一致する要素があるかどうかを検索する

(図9 S41)。そして、一致する要素を優先して表示する(図9 S42)。

【0030】よって、例えば、ジャンルを選択した場合には、テレビ関係データのジャンル名データを検索し、好感度数の最も高いジャンルのジャンル名データと一致する番組があれば、その番組案内を優先して表示する。つまり、好感度数の最も高いジャンルが「ニュース」である場合には「ニュース」のジャンルの番組があるかどうかを検索し(図9 S41)、ニュースの番組を優先して表示する(図9 S42)。具体的には、図10に示すような表示内容となる。好感度数の最も高いジャンルのジャンル名データが検索されない場合には、2番目に好感度数が高いジャンルのジャンル名データと一致する番組があれば、その番組案内を表示する。なお、好感度数が高い所定数のジャンルの番組を表示するようにしてもよい。例えば、図7に示す好感度テーブルの場合に、「ニュース」と「映画」と「ドラマ」については表示するようにする等が考えられる。

【0031】次に、番組案内モードにおける好みの要素による表示の中でも、特に、人物名データに基づく表示について説明する。つまり、この場合は、好みの要素による表示を選択するとともに、人物名データによる表示を選択した場合である。まず、独立データ中のテレビ関係データを取り込む(図11 S50)。そして、視聴者の好みの人物の人物名データと一致する人物名データがある番組があるかどうかを検索する(図11 S51)。つまり、好みの人物名がテレビ関係データ中にあるか否かを検索する。この検索は所定のプログラムに基づきCPU52が行なう。そして、一致する番組においては、その人物を優先して表示する(図11 S52)。

【0032】具体的には、通常の番組案内モードにおいては図8に示すように表示される場合に、「中部太郎」が人物の中で最も好感度数の高い人物である場合には、番組案内モードの表示部32への表示内容は図12に示すようになる。つまり、該「中部太郎」の名前が各番組の出演者等の表示欄の先頭に表示される。

【0033】なお、番組案内モードにおける好みの人物による表示の他の表示方法としては、図13に示すものが考えられる。これは、好みの人物の出演するチャンネル、時間帯、ジャンル等を表示するものである。このようにすれば、好みの人物が関係する番組がどのチャネ

ルでいつ放映されるかを一目して知ることができる。また、図8に示す状態で、好感度の高い人物名を大きく表示したり、その人物名だけ表示する色を変えて表示するようにしてもよい。なお、上記ジャンルの場合と同様に好感度数が高い所定数の人物を表示するようにしてもよい。

【0034】なお、上記では、好みの要素として、ジャンルや人物を例に挙げて説明したが、他の要素でもよく、例えば、ある特定の語を有する番組を検索するようにしてもよい。つまり、例えば、番組名等に「野球」の語を有する番組の好感度数が、スポーツ番組や映画等特定のジャンルに限らず高い場合には、そのような番組を優先して表示するのである。

【0035】次に、好感度数の高い番組の自動録画について説明する。つまり、好感度数の高い人物についての番組が放映される場合には、その番組を自動的に録画予約するのである。より具体的に説明すると、視聴者がテレビを視聴しているか否かを判定する(図14 S60)。ここで、視聴者がテレビを視聴していない場合は、表示や音声のスイッチングはOFFされているが、受信系やCPU52は動作している。視聴していない場合には、ステップS61に進みテレビ関係データを取り込む(図14 S61)。そして、視聴者の好みの人物の人物名データと一致する人物名データがあるかどうかを検索する(図14 S62)。例えば、図7に示すように好感度テーブルが構成されている場合、中部太郎の人物名が存在するかどうかを検索する。そして、一致する番組の録画予約を自動的に行なう(図14 S63)。つまり、図8に示すように、チャンネル88において「中部太郎」が出演する映画があるので、これを録画予約する。一致する番組がない場合には、そのまま処理を終了する。

【0036】また、上記の説明では、番組を視聴していない場合に、好みの人物に関する番組を録画予約することにより該番組を優先的に扱うが、他の方法により優先的に扱うようにしてもよい。つまり、ある番組を視聴していて、その時間に視聴者の好みの人物に関連した番組が放映される場合には、強制的にその番組に切り換えるようにしてもよい。また、ある番組を視聴していて、その時間に視聴者の好みの人物に関連した番組が放映される場合に、視聴者が視聴している番組はそのまま表示しつつ、その好みの番組に関連した番組を録画するようにしてもよい。この場合には、視聴している番組のデータは映像デコーダ22や音声デコーダ24からインタフェース30を介して表示部32、スピーカ34に送られ、一方、録画を行なう番組のデータはインタフェース30を介してDVD-RAMドライブ36に送られることになる。よって、この場合には、映像デコーダ22等を複数設ける等の処理が必要になる。

【0037】

【発明の効果】本発明のテレビジョン放送方法及び好感度検出装置によれば、視聴者の出演者等の人物の好みに応じた処理を行なうことができ、好感度の高い人物に関連する番組を優先して番組案内したり、録画したりすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施例に基づくテレビジョン受信装置の構成を示すブロック図である。

【図2】受信データの構成を示す説明図である。

【図3】受信データの構成を示す説明図である。

【図4】本発明の実施例に基づくテレビジョン受信装置の動作を示すフローチャートである。

【図5】本発明の実施例に基づくテレビジョン受信装置の動作を示すフローチャートである。

【図6】本発明の実施例に基づくテレビジョン受信装置の動作を示すフローチャートである。

【図7】好感度テーブルを示す説明図である。

【図8】番組案内モードにおける通常の表示内容を示す説明図である。

【図9】本発明の実施例に基づくテレビジョン受信装置の動作を示すフローチャートである。

【図10】番組案内モードにおける好みのジャンルに基づく表示内容を示す説明図である。

【図11】本発明の実施例に基づくテレビジョン受信装置の動作を示すフローチャートである。

【図12】番組案内モードにおける好みの人物に基づく表示内容を示す説明図である。

【図13】番組案内モードにおける好みの人物に基づく表示内容を示す説明図である。

【図14】本発明の実施例に基づくテレビジョン受信装置

置の動作を示すフローチャートである。

【符号の説明】

A テレビジョン受信装置

B ホームオートメーションシステム

10 BS・UHF・VHF共用受信部

12 CS用チューナー

14 QPSK復調部

16 誤り訂正部

18 スクランブル解除部

20 データ分離・番組選択部

22 映像デコーダ

24 音声デコーダ

26 格納部

28 キャラクタジェネレータ

30 インタフェース

32 表示部

34 スピーカ

36 DVD-RAMドライブ

40 ホームオートメーション通信部

42 リモコン受光部

44 スロット

46 モデム

48 記憶部

50 インターネットソフトウェアモジュール

52 CPU

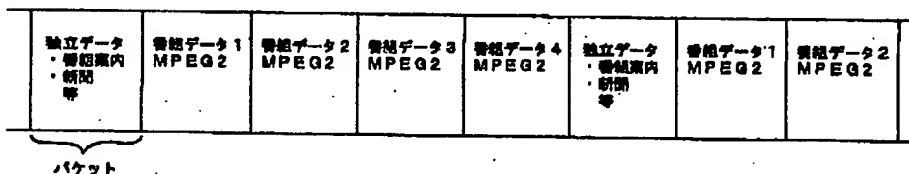
68 リモコン

70 カード

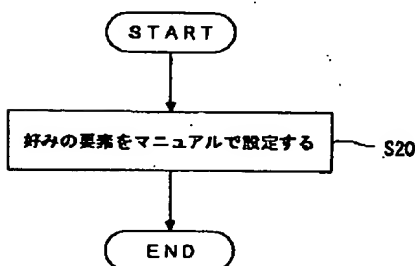
72 電話機

74 電話回線

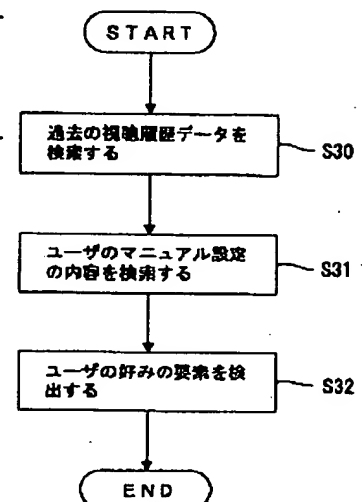
【図2】



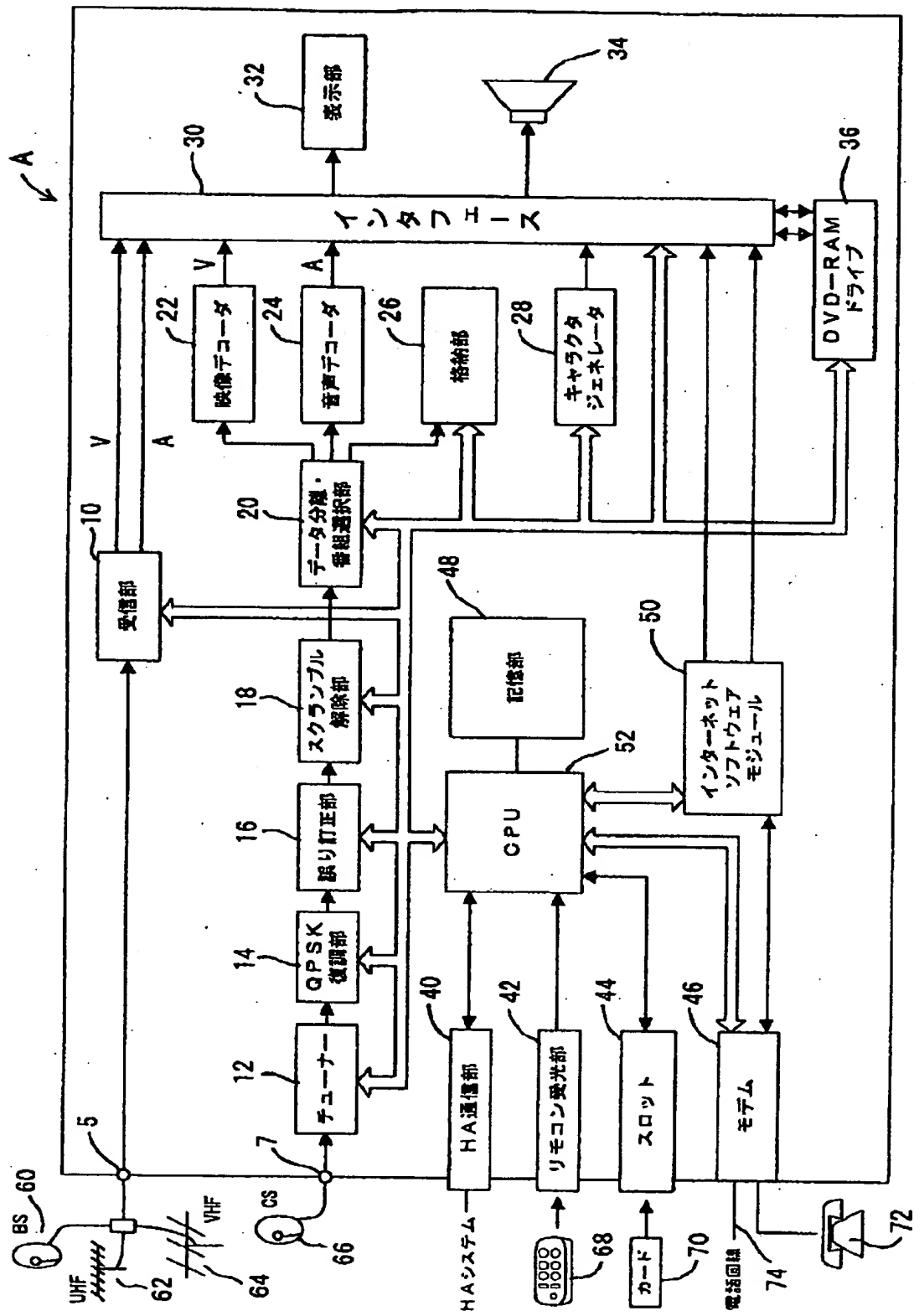
【図5】



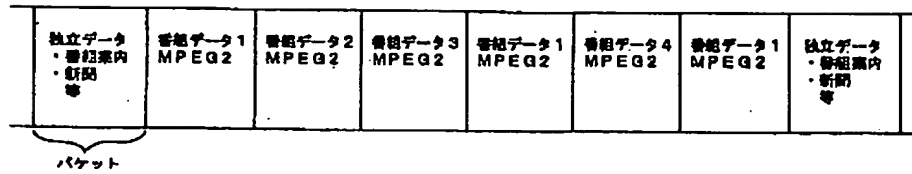
【図6】



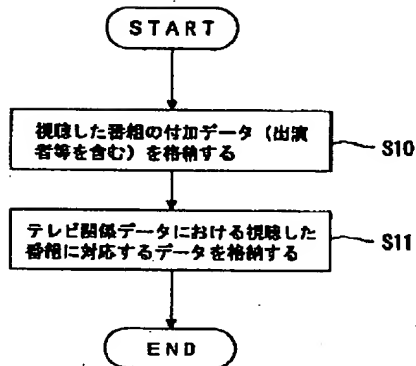
【図1】



【図3】



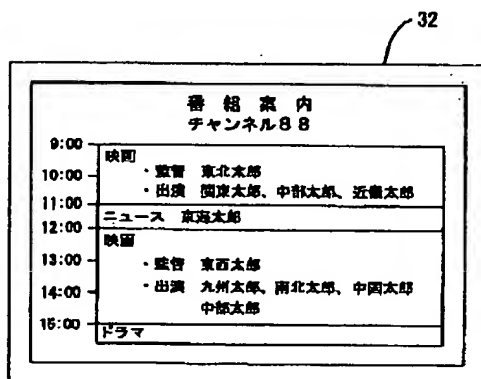
【図4】



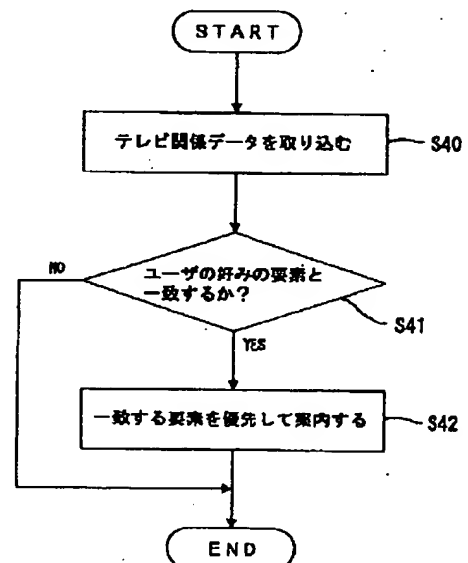
【図7】

| | ジャンル | 人物 | | 総合 |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1 | ニュース | 中部太郎 | | 中部太郎 |
| 2 | 映画 | 東北太郎 | | ニュース |
| 3 | ドラマ | 関東太郎 | | 映画 |
| 4 | スポーツ | 九州太郎 | | 東北太郎 |
| | | | | |

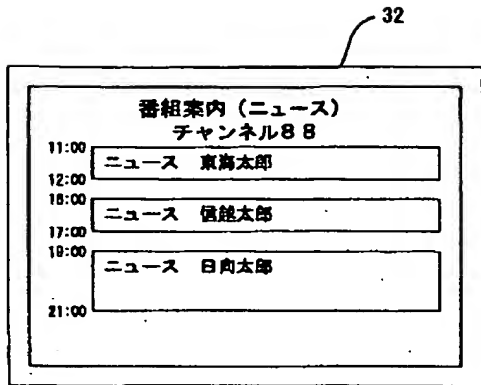
【図8】



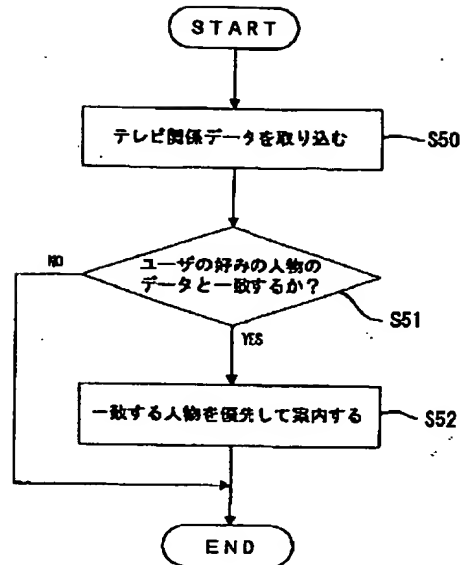
【図9】



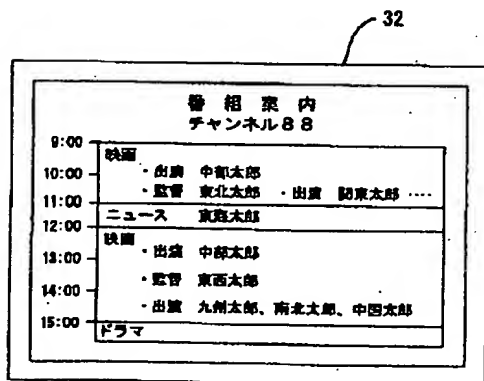
【図10】



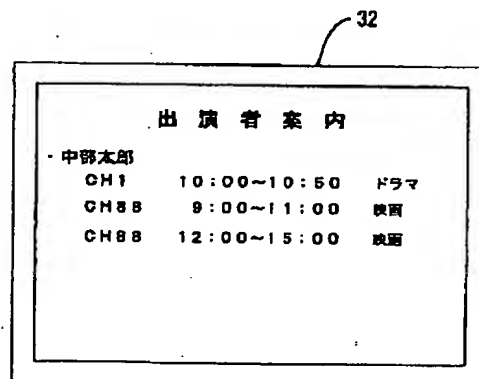
【図11】



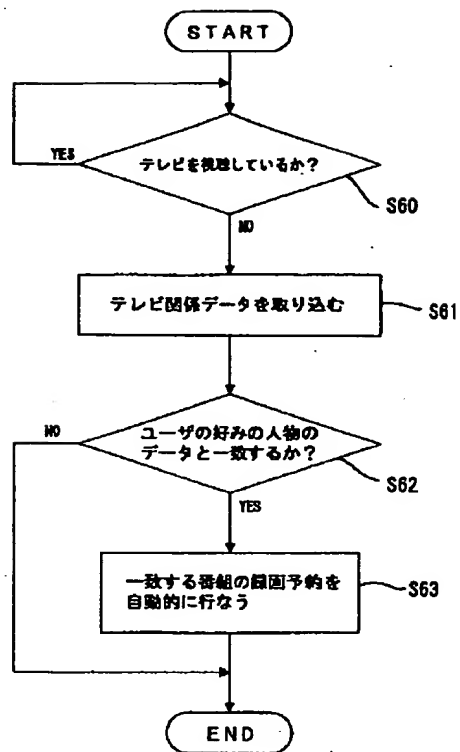
【図12】



【図13】



【図14】



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☒ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER: _____**

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.